

## 宮中晩餐会でのあいさつ

(一九八三年十一月十日)

いまから百三十一年前、私たちの父祖は、世界中でもきわめて重要な二国間関係の基礎を徐々に据え始めました。

当時、ここ東京からあまり遠くない海辺で初めて出会った日本人とアメリカ人は理解し合うのに、大へん苦労したようです。あの一八五〇年代の日米ほど、異なる文化と歴史を持つた国の例は稀でした。

今日、私たちの言語は、いぜん異なっていますが、これまでになくお互いを理解し、評価し合っています。事実、私たちは依存し合い、両国の関係から、計り知れぬ恩恵を得ています。私たちは、主要な貿易パートナーであるのみならず、幾多の国際的な努力や政治的な努力において協力しつつ、海外でも平和を強化し、繁栄を促進しています。私たちのすべての努力において基本となるものは、互いに築いてきた緊密な協力の絆であり、この絆は日米の若い留学生や、つね日ごろ交流している実業家、政治家、科学者、芸術家、スポーツ選手などを結んでいます。

これらの多くの絆は、何百万本もの糸がより合わされたように力強く私たちを結びつけ、それは断ち切れることがありません。この絆は、共通の理想と価値観に基づいており、両国民は、互いに親しみの感情と称賛の念を抱いています。

アメリカ人は、日本国民の活動力と勤勉さについて、よく存じております。ビジネスの分野では、たしかに競争相手ではありますが、私たちは友好的な競争相手であり、互いに尊敬し合っています。

友好の意味は、両国民の真情やコミットメントのなかに見出すことができます。アメリカの思想家エマソンはこう書いています。「友人を得るための唯一の道は、自分から友人になることである」と。アメリカ国民は、日本を称賛しており、日本が遂げた長足の進歩、国民の不屈の精神と献身、そのすばらしい纖細な文化、世界の問題において、ますます重要性を増している日本の役割を称賛しています。

陛下、私たちは陛下に敬意を表するものであります。陛下は、日本の歴史と伝統を象徴しておられるとともに、日本の美しい国土と雄々しい国民が遂げてきた大きな変化を体現されておられます。陛下がお国を愛し、日本の民主主義の諸制度を大切にされていること、学問と真理の探求に献身されていること、自然界に深い愛着を抱いておられることなどをはじめ、陛下とそのすばらしいご一家のご生活は、国民に力を与え、信念と理想において国民を結びつけております。

毎年春を迎えますと、アメリカでは、全国各地から人びとが首都ワシントンを訪れ、咲きほころぶ桜の花をめでます。この美しさは、日本からの贈り物です。この桜の木は、一九一二年に東京市から贈られたものです。

昨年、日本花の会では、桜の美しさがアメリカ全国に拡がるようとの願いをこめて、アメリカ国民に桜の種子百万粒を贈つて下さいました。そして今年一月、アメリカの国立樹木園は、お国にハナミズキの種子を贈りました。

これらの花は、日米友好の美しさを私たちに思い起こさせるよですがとはなりますが、一年に一度咲く花とは違つて、日米友好を永遠に咲く花にしたいものです。

私たち両国は、混沌と不確定のなかから国交を始めましたが、今や最も緊密な友好国であり、パートナーであります。このたび貴国を訪れ、私は日米関係の将来への確信を改めて強くしました。日米両国の関係が、今日のように永遠に緊密であらんことを。